

令和の時代に向けて



信友会会長 成田千春

信友

信友会事務局

東京都新宿区四谷本塩町4-41
住友生命四谷ビル
電話 080-4816-3202

主な記事	2面
3面	・通信学校長
4面	・システム通信団長
5面	・陸上幕僚監部通信補給統制本部通信電子部長
	・自衛隊指揮通信システム隊司令
	・会員だより

対する信友会会長としての講話において、信友会の紹介を実施していきたいと思います。

本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。信友会会員の皆様の中には、先般ご案内した無事されている現職隊員の皆様、つつがなく令和二年を迎えていらっしゃることとお慶び申し上げます。

令和元年は、我が国の安全保障とり新たな幕開けとなる年になりました。一昨年策定された「平成三十一年度以降に係る防衛計画の大綱」において、これまでの統合機動防衛力の方向性が進化され、宇宙・サイバー・電磁波の「新領域」を含む全ての領域を有機的に融合した領域横断作戦を実現する多次元統合防衛力の構築を目指すこととされました。この新領域のうち、サイバー・電磁波はまさにシステム通信分野の正面であり、これらに携わる現職隊員の皆様の役割は今後益々重要な役割となっています。

さて、私は田中前会長の後を受け、昨年四月から第十二代信友会会長を務めさせて頂いています。歴代会長及び事務局の皆様のこれまでのご尽力に感謝申し上げるとともに、令和の新時代に向けて新会長として信友会の維持・発展に微力ながら精一杯努力する所存ですので皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願いします。

新会長として何か新しいことをとは思いますが、先ずはこの伝統ある会を「継続」するため、昨年までの事業を引き継ぎ実施していきたいと思います。信友会ホームページによる情報発信を充実させるとともに、会員名簿の作成、機関紙の発行、総会・合同歓送迎会、地区懇親会等の事業を例年通り実施する予定です。本年の地区懇親会は、北部方面通信群の記念行事に併せて実施する予定ですので、北部地区の会員の多数のご出席を期待しています。また、新入会員の増加施策につきましても、通信科部隊の現職部隊長宛に信友会へのご理解と入会依頼の手紙を送付するとともに、通信学校幹部課程に

第56回総会・合同歓送迎会のご案内

【お願い】

出欠については同封のはがきでご返信下さい。

九〇〇〇円(当日受付にて頂きます。)



古稀会員乾杯御発声



陸幕通信電子課長講話



万歳三唱



西方通信群長を囲んで

平成最後の信友会行事、成功裡に終了!

第五十五回総会及び通信科・信友会合同歓送迎会を挙行

第五十五回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会が平成三十一年一月十日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において盛大に行われました。

十一時から、陸幕通信電子課長 奈良岡一佐(当時)の講話に始まり、続いて実施された総会では、平成三十一年度事業報告及び平成三十一年度事業計画等が審議・了承されました。総会終了後には、前年度総会以降古稀を迎えた会員である鈴木様と田中会長、成田副会長(ともに当時)で記念写真を撮影しました。

その後、十二時から、信友会・現役合同の歓送迎会が挙行されました。歓送迎会当日は、会員・現役をはじめ、関係企業等多くの皆様のご賛同を得て、三百三十五名の出席を頂きました。会員・現役の参加者の合計が前年度と同等の人数で、盛大かつ成功裡に合同歓送迎会を執り行うことができました。

会は、現役発起人代表としてシステム通信団長 菅野将補の挨拶、退官者(信友会入会者)紹介、田中信友会会長(当時)の挨拶及び八十歳以上の参加者十七名の会員の紹介に始まり、会食・懇談の後最後は補統通信電子部長 岡一佐(当時)の万歳三唱により締めとなりました。約二時間の会は、和やかな雰囲気の中、信

友会会員相互の旧交の場、現役隊員との交流の場、通電関係企業等との意見交換の場として極めて有意義な会となりました。本年は、二月二十三日(日)に第一ホテル東京で開催されます。今回も三百名を超える会員、現役の皆様多数のご来場をお待ちしております。

西地区懇親会実施

信友会地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会の場をお借りして行っています。

平成三十一年は、西部方面通信群創隊五十九周年記念行事に併せて、三月三日(日)に健軍駐屯地内において行いました。西方地区的信友会会員十四名、他方面から十五名(うち役員九名)の計二十九名の方々が参加し、奈良通信群長への記念品の贈呈に続き、群長自ら部隊の近況等の説明をいただきました。次いで信友会事業の説明等を行い、現役隊員及び招待者も一緒になって、久しぶりの再会に大いに語り合い、懇親の実をあげました。

信友会地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会の場をお借りして行っています。平成三十一年は、西部方面通信群創隊五十九周年記念行事に併せて、三月三日(日)に健軍駐屯地内において行いました。西方地区的信友会会員十四名、他方面から十五名(うち役員九名)の計二十九名の方々が参加し、奈良通信群長への記念品の贈呈に続き、群長自ら部隊の近況等の説明をいただきました。次いで信友会事業の説明等を行い、現役隊員及び招待者も一緒になって、久しぶりの再会に大いに語り合い、懇親の実をあげました。

陸自のシステム通信を支える教育の展望と課題

通信学校長 陸将補 田浦尚之



信友会会員の皆様には、平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

学校長に着任して一年が経過しました。「将来の自衛隊のシステム通信を担う人材の育成」を要望事項に掲げ、日々校務運営に邁進しております。

今回は、「陸自のシステム通信を支える教育の展望と課題」というテーマをいただきましたので、学校長という地位・役割からこのテーマに若干触れさせていただきます。

平成三十一年三月十七日、防衛大学校卒業式における安倍首相の訓示は、卒業式に参加していた小官にかなりの衝撃を与えたことを記憶しています。

安倍首相は訓示の中で「サイバー空間や宇宙空間における活動に各国がしのぎを削る時代だ。陸・海・空の從来の枠組みにとらわれた発想のままでこの国を守りぬくことはできない。」「新しい防衛大綱のもと、宇宙、サイバー、電磁波といった領域で我が国が優位性を保つことができるよう、次なる時代の防衛力の構築に向け、今までとは抜本的に異なる速度で変革を推し進めていく。」と発言されました。特に、「今までとは抜本的に異なる速度で……」という部分は今までにないスピード感で新領域における防衛力整備を進めていくという政府の覚悟であると受け止めました。その際、小官の頭をよぎったのは「そのスピードに人材育成は間に合うのか?」という「危機感」でした。

また、令和元年九月十二日の河野防衛大臣着任訓示において、「我が国自身の防衛体制の強化にあたっては、從来の陸・海・空という区分や既存の予算・人員を前提とする旧来の発想から脱却し、真に実効的な防衛力として『多次元統合防衛力』を迅速に構築して参る考え方です。」と発言されております。

両者の訓示に共通して言えることは、多次元統合防衛

力は「新しい発想とスピード感」で整備していくという強い意思が込められており、学校長としてそれらに対応できる人材育成が急務であるという「危機感」をさらに感じた次第です。新領域と言われるサイバー及び電磁波領域は通信科職種の隊員が核となり、真に戦える部隊を創造していく必要があります。ご承知のとおり人材は、一夜にして育成できるものではなく、時間と労力をかけて部隊で活躍できる隊員をしっかりと育てる必要があります。

通信科職種の教育の展望と課題はまさに「新領域等にも対応できる人材の育成」であると認識しております。このため、学校だけではなく部隊も含めて職種一丸となつて人材を育成する必要があると強く認識しました。

その実現のため、第一弾として通信科職種的主要指揮官とこれら危機感を共有して部隊と学校が協力し合い、

職種を挙げて同じベクトルを同じ方向に向けて人材育成に励む必要性から、定期的に学校と部隊との間で職種VTCを立ち上げ、様々な問題を共有・解決していく枠組みを作り実行しております。まだ始めたばかりですが、徐々にその成果はでてきていると認識しております。

主要な指揮官と認識が共有できたならば、第二弾として通信科職種全隊員の意識改革を断行することが必要です。今通信学校では、平成二十七年度に作成した「通信科ビジョン」を見直しております。また、前回の反省を踏まえ、通信科全隊員に浸透させることを主眼に作成中であります。

通信科ビジョンは「不易(従来の通信の確保等)流行(新領域の核となる職種)」を掲げ、将来の通信科隊員のあるべき姿を提示して隊員全員に対し、夢や希望を与えて通信科への帰属意識を持たせることを最大の目的として作成し、今後普及・徹底を図っていく所存であります。

以上の点を踏まえ、今後も強靭な陸上自衛隊の創造のため、システム通信科の将来のために小官以下、陸上自衛隊通信学校と部隊が一丸となつて将来の自衛隊のシステム通信を担う人材を育成していく努力を惜しまず継続していく所存であります。

これからも信友会の皆様におかれましても引き続きご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひ致します。

信友会会員の皆様には、平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

システム通信運用の現状と展望

システム通信団長

陸将補 菅野俊夫



一般部隊では対応困難な極めて厳しい環境になることが想定されるため、同行支援する部隊・隊員の行動能力も高める必要があります。

また、総隊司令部においては、平素からの司令部内及び関係部隊・部署との間の連携、情報及び認識の共有を基礎とし、各種事態等の発生に際しては作戦に任ずる部隊の機動及び活動状況を適時に把握し、状況変化に応じた柔軟な部隊運用のための確実な指揮命令の伝達を行うとともに、総隊司令部から市ヶ谷・官邸への迅速かつ正確な報告、現地映像の実時間での提供等が必要不可欠であると認識しております。

一 はじめに

○何時如何なる場所においても確実かつ安全に指揮・統制・連絡ができること
○重要正面や特定部隊の活動状況を映像により直接中央で確認把握できること

○指揮所内／間の連携環境を含め効果的・効率的な指揮幕僚活動ができること
○平素・準備段階から終結・原態勢復帰までを通じ機能発揮を持続できること

これらは、陸上総隊司令官・司令部から明示的・暗示的に要求されている事項であり、文言としては至極当たり前のことでですが、現有編成装備・現態勢・実員をもつて実行するには課題が多く、現実の厳しさを日々痛感しています。

二 システム通信運用の現状と展望

陸上総隊による陸自部隊の全国運用においては、総隊直轄部隊を方面隊に配属するのみならず、総隊司令官自らが直接指揮する場合も考慮されています。

従つて、システム通信運用においては、総隊直轄部隊に対しても、作戦を主宰する方面隊に対しても、総隊司令官自らが直接指揮する場合も考慮されています。

強化が図られ、活動が活発化する等の厳しい現実があり、物理領域・実空間における国の護りを疎かにすることはできません。

加えて、目に見えない非物理領域、即ち情報空間やサイバー空間における平素からの駆け引き、情報操作や影響工作は常態化しており、今後益々激化することも予期した対処態勢の確立が火急の課題となっています。

我が国は、周辺国との間で領土・領有権に係る問題を抱えています。更に、周辺国では軍の改革や装備の近代化・強化が図られ、活動が活発化する等の厳しい現実があり、物理領域・実空間における国の護りを疎かにすることはできません。

従つて、システム通信運用においては、総隊直轄部隊の運用に必要なシステム通信を自ら確保することが必要となっています。

元々十分ではない総隊直轄部隊のシステム通信能力を強化し、総隊司令部との間のシステム通信を確保して作戦の全期間を通じ安定的かつ安全に維持しなければなりません。

加えて、唯一無二の総隊直轄部隊が運用される場面は、

「多次元統合防衛力」構築に向けて

陸上幕僚監部装備計画部

通信電子課長

一等陸佐 岡一博



信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また平素より陸幕装備計画部通信電子課に対する

ご指導、ご鞭撻並びにご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。平成三十一年三月から通信電子課長を拝命しておりますが、三たび「信友」への寄稿の機会を頂き誠にありがとうございます。

現在、陸幕において通信電子器材に係る補給整備・装備行政を担う立場として今後の防衛力整備（通信電子関連）に関する陸自の取り組みと課題等について紹介したいと思います。

令和元年度は三一中期防の初年度であり、我が国を取り巻く安全保障環境は格段に速いスピードで変化するとともに厳しさ及び不確実性がますます増大する中、三〇大綱において示された「多次元統合防衛力」構築に向けて、着実に防衛力整備を進めていかなければなりません。特に、通信電子関係としては、領域横断作戦を実現するため、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域における能力を獲得・強化することが必要であり、それらの事業の大部分を担つていかなければならぬと認識しています。

これらの実現に向けて、令和元年度においては、宇宙領域の能力強化について、衛星幹線通信システムの統制局装置を北部方面通信群に、可搬局装置・携帯局装置を師旅団の通信大隊等及び水陸機動団等に導入し、衛星通信能力を向上させます。

サイバー領域の能力強化にあつては、陸自電算機防護システムのラボ機能の換装、サイバー防護機能強化に伴う東部方面通信群の改編が予定されている他、通信学校において陸海空自衛隊のサイバー要員を対象とした教育が既に開始されたところです。

電磁波領域の能力強化にあつては、陸上自衛隊の電磁波作戦の中核として位置付けられているネットワーク電

子戦システム（NEWS）の初号機を教育所要分として通信学校に導入致します。また、電子戦装置の高出力化や電磁波管理機能に関する調査研究を行い、今後の機能強化の資と致します。

さらに、今中期間においては、陸上総隊の隸下部隊に

おり、令和二年度概算要求において、陸自サイバー防護隊（仮称）の新編、サイバー教育に係る体制整備（通信学校に陸海空自衛隊共通のサイバー教育を担任するサイバー教官室（仮称）を新設）、ネットワーク電子戦システムを装備した新たな電子戦部隊の新編等を要求してお

り、この「信友」がお手元に届く頃には、これらの内容を含む令和二年度予算案が国会において審議されているものと思料します。

他方で、現中期防において、主に冷戦期に想定された大規模な陸上兵力を動員した着上陸侵攻のような侵

略事態への備えについては、徹底した効率化・合理化により、将来における情勢の変化に対応するための最小限の専門的知見や技能の維持・継承に必要な範囲に限り保持することとされており、より柔軟かつ重点的に資源を配分した効果的な防衛力整備・維持運用を行うことが求められます。

その結果として、我々が保有している一部の装備品についても損耗更新が抑制され、当該装備品を長期的に維持していくかなければならぬ状況が生起してくることが予想され、耐用命数を遥かに超えた期間を必要最小限のコストで維持していくことが求められます。

旧式の装備品の中には、製造中止となつてしまつた部品等が数多く存在し、故障修理も容易ではありません。しかしながらこのような課題を克服し現状の防衛力を効率的に維持しつつ、新たな領域に対応するための防衛力を着実に整備していくことが我々の使命だと認識しています。これらを実現するためには防衛関連企業の協力と通信科職種OBの皆様のご支援が不可欠です。

最後になりますが、信友会の皆様には今後とも陸上幕僚監部通信電子課への温かい激励と変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、信友会の益々のご発展を祈念申し上げます。

システム通信における補給整備について

補給統制本部通信電子部長

一等陸佐 川田義一



信友会の皆様におかれましては、平素より補給統制本部通信電子部の業務遂行に多大なるご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

平成三十一年三月、第十一代通信電子部長として着任し間もなく一年になります。陸自兵站中枢に勤務する誇りを胸に、歴代諸先輩方が脈々と築かれた伝統を継承しつつ部隊の任務達成に寄与し得る補給整備業務を遂行中です。

補給統電部の令和元年度の業務については、各種事態における通信電子器材に係る兵站支援能力の実効性向上、部隊の隊務に即した補給整備業務の推進及び陸自体制移行の推進を主眼に調達・補給整備及び調査研究等を行っております。これからシス템通信における補給整備を考えると、特に南西地域に機動展開する部隊の任務或いは運用ニーズに基づく補給整備要領を如何に実施していくのか、また、新旧混在する通信電子装備品等の高可動維持施策の具体化が喫緊の課題であると認識しております。

部隊の任務或いは運用ニーズに基づく補給整備要領については、南西地域に機動展開する部隊への支援要領として、作戦準備段階から作戦実施間において、同地域に開設される兵站基盤を活用して任務達成に必要な補給品を各部隊の必要とする時期・場所に集積又は追送するともに、所要の整備を実施し装備品の高可動率を維持する等の通信科兵站支援を万全にする必要があります。

このため、主要レーダー等の重要装備品に係る現地整備要領について、整備段階区分の見直しや部外力の活用を見据えた現地整備支援要領（ICTの活用等）の確立、事前集積リストから漏れている整備用部品の追送要領等の具体化・検証が急務であり、現在補給統制本部で実施している兵站実務訓練等において検討深化を図っております。



補給統制本部での会議

従来以上に使用部隊、野整備部隊、補給処並びに関連企業の皆様と緊密に連携し、様々な長期不可動要因の排除に取り組むとともに、製造中止部品対策として代替品の採取を促進し、更には不可動直結部品を再精査して保管検討や不用決定処置がなされた各種装備から所要の部品採用を促進し、更には不可動直結部品を再精査して保管

品目基準の見直しを進める必要があり、こうした一つ一つの業務の積み重ねが部隊の任務遂行に必要な物的戦闘力の充実に繋がっていくものと認識しております。

前項に加えて、新防衛大綱に基づきサイバー・電磁波の新領域を含む「領域横断作戦」の実現に向けて導入が予定されている各種装備品に対する整備員の育成や補用品の保持要領等、厳しい予算環境の中においても常時運用態勢を継続する新編部隊等の兵站支援要領についても具体化を図り、多次元統合防衛力の実効性の向上に寄与しなければならないと考えております。

以上のように、これからシステム通信における補給整備上の諸課題について私見を申し述べましたが、この他にも大小様々な問題の解決に向け取り組んでいく必要があると思います。こうした課題解決には現役隊員のみならず関連企業の皆様からの知見や諸先輩からのご助言等の協力が必要不可欠であり、信友会の皆様には引き続き補給統制本部通信電子部に対するご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

サイバーにかかる展望と課題

自衛隊指揮通信システム隊司令

一等陸佐 伊藤 幸二



信友会の皆様には平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

自衛隊指揮通信システム隊は共同の部隊として十二年目を迎え、時代の流れに応じてこれまでの変遷と異なり大きく変わらうとしています。三十一年度以降に係る防衛計画の大綱に基づく中期防衛力整備計画において、自衛隊の情報通信ネットワークを當時継続的に監視するとともに、我が国への攻撃に際して当該攻撃に用いられる相手方によるサイバー空間の利用を妨げる能力等、サイバー防衛能力を抜本的に強化し得るよう、共同の部隊としてサイバー防衛部隊一個隊を新編する計画となっています。

世の中の趨勢を見れば、情報通信ネットワークへの依存度の一層の増大等、サイバー空間は作戦を遂行する上で死活的に重要であり、宇宙・サイバー・電磁波の新たな領域を含むすべての領域における能力を効果的に連接する指揮統制・情報通信機能の強化・防護が必要です。

領域横断作戦に必要な能力の強化における優先事項の一つの分野がサイバー領域です。サイバー領域における能力の獲得・強化の為に、①サイバー防衛隊等の体制を拡充、②情報収集機能や調査分析機能の強化、③実戦的な訓練環境の整備、④共同演習等の実施、⑤優秀な人材の計画的な育成、⑥部外の優れた知見の活用が計画されています。

前述の計画がなされていることは裏返すと、これらが喫緊の課題であり、早急に対応していくことが必要であるということです。省として態勢・体制整備を推進している中で、部隊側からの視点で見れば、任務の拡大や人員増大等に対応して受け入れ態勢（人的・物的）を整えるため、勤務環境の整備、任務遂行の為の関連能力の付与を行わなければなりません。

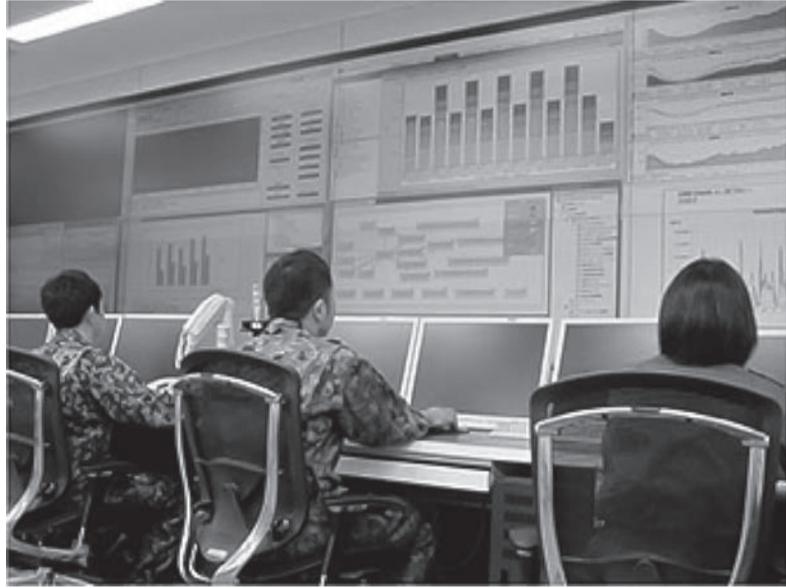
特に、人材育成についてまずは、自衛隊員に期待する部分と、部外の知見に期待する部分を明らかにし、お互いの力を最大限に活用する事を念頭に自衛隊員の育成を行わなければなりません。

図ることが必要です。自衛隊員を育成するにあたっては、取得している資格に限らず保有している能力を適正に評価し、適切な初度配置と将来の配置計画を立てることが必要です。

サイバー業務に関する自衛隊員の能力を高めるためには、部隊の育成計画とともに個人のモチベーションに期待するところも多くあり、このために興味を引く教育、研修及び必要な装備（ソフトウエア、情報機器等）の充実を図ることも必要となります。また、人海戦術で実施する任務と、特定の高度な専門知識を保有する人材による任務を明確にして育成と配置を行うことが必要です。

先に述べたように、保有する資格だけで個人のサイバー関連能力を測ることはできません。隊員の能力評価を行うにあたり自衛隊の任務に応じた共通の能力評価要領を確立して共同の部隊として省に所属する陸海空自衛官、技官、事務官の中から適任者の選抜、適切な補職を行いながら確実に任務遂行していくことが必要と考えています。

サイバー領域での前述の課題に迅速に取り組み、隊に与えられる任務達成に邁進して参ります。信友会会員の皆様のご指導、ご鞭撻を引き続きお願い致します。



サイバー防衛隊で勤務する隊員
(出典:平成28年版防衛白書)

陸上自衛隊通信電子の現況

主要通信電子器材等の整備

一 はじめに

我が国を取り巻く安全保障環境を概観すると、これまで核実験や弾道ミサイル開発を推進してきた北朝鮮は、近年、前例のない頻度で各種ミサイル発射を繰り返し、同時発射能力や奇襲攻撃能力を急速に強化するとともに、大規模な特殊部隊の保有及びサイバー部隊を強化する等、看過できない状況が継続しています。

また、中国は、透明性を欠いたまま軍事力を強化するとともに、力を背景とした一方的な現状変更の試みを継続させているほか、我が国周辺での行動の活発化等、地域・国際社会の安全保障上の懸念となっています。

さらに、サイバー空間や宇宙空間などの新たな領域の安定的な利用の確保等、グローバルな安全保障上の課題も顕在化してきています。

このよう中、陸上自衛隊は、平成30年12月に策定された「平成31年以降に係る防衛計画の大綱について（以下、「三〇大綱」という。）」に基づき、「多元統合防衛力」を実現する陸上防衛力の構築を推進しています。平成30年3月27日に陸上総隊が新編され陸上総隊による陸自部隊の一体的な全国運用態勢の下、抑止及び対処等の更なる実効性の向上に努めているとともに、令和元年度末には東北方面特科連隊、第六情報隊、第十五情報隊及び訓練評価支援隊等が新編される予定であり、実効性の高い陸上防衛力の構築に努めています。

二 システム通信等に関する状況

情報通信技術

情報通信技術は、その急速な発展と普及に伴い、社会経済活動の基盤として必要不可欠なものとなつており、システムやネットワークに障害が起きた場合、国民生活や経済活動に大きな影響を及ぼす可能性があります。

我が国においても、サイバーセキュリティに関する政府の関与が指摘されているハッカー集団からの政府機関や防衛・航空宇宙産業等に対するサイバー攻撃が指摘されているとともに、その脅威は年々巧妙化・深刻化しており、情報通信システムの安全性向上を図るために、防護システムの整備、規則の整備、人的・技術的基盤の整備、情報共有の推進、最新技術の研究など、総合的な施策を行っています。また、米陸軍サイバーコンペに連絡官を派遣するとともに、二国間でのサイバー競技会を実施する等、米国との連携を強化しています。令和元年度末においては、日々高度化・巧妙化するサイバー攻撃に適切に対応するため、自衛隊指揮通信システム隊サイバー防衛隊（共同部隊）が昨年度に引き続いて増員されるとともに、東部方面通信群システム防護隊が新編される予定です。



ネットワーク電子戦システム「NEWS」

陸幕通信電子

三 主要通信電子器材等の整備

令和元年度は、O-H多重通信装置を西部方面通信群に、衛星幹線通信システム可搬局装置を陸上総隊（水陸機動団）等に導入して野外のネットワークインフラを強化し、即応性を向上させます。

また、ネットワーク電子戦システムを通じて、水陸機動団等に導入するとともに、UAV（中域用）を導入して電磁波領域における教育基盤を整備する他に、火力戦闘指揮統制システム及び近距離監視装置を水陸機動団等に導入し、南西地域のC4ISR能力向上させます。

会員だより

会員 鈴木 健



私は、平成十七年三月自衛隊を退官、平成三十一年の信友会総会で古希のお祝いを頂きました。誠に有難うございました。心から御礼申し上げます。

現在は、公益社団法人全日本銃剣道連盟の副会長兼専務理事と神奈川県銃剣道連盟の会長として銃剣道・短剣道の普及に東奔西走しています。

銃剣道との出会いは、防大のクラブ活動でしたが、充実した自衛官生活が送られたのも銃剣道のお陰と思っており、その恩返しのつもりで日々活動しています。せっかくの機会ですので、銃剣道の現状と活動を通じて得た感動について紹介させて頂きます。

現在の銃剣道は、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなたとともに、日本の伝統文化である武道として定義づけられています。会員の大部分が自衛官ですが、ジュニア、女性、シニア、海外等に普及活動を展開しています。

ジュニア育成では、宮城県岩沼市での全国高校生大会、日本武道館での小・中学生の全日本大会の他に、各地で大会や研修会等を開催しています。最近では中学校で銃剣道授業が行われています。

女性剣士は年々増加し、全国大会で団体戦が可能になりました。将来は団体参加を目指しています。

国際普及では、在日外国人武道家を中心に、全日本大会への参加や、国内外でのセミナー開催等の活動をしています。

自衛隊で育ってきた銃剣道ですが、今日では武道として、文化、教育、健康維持等の社会的価値を有していると思っています。

これらの活動を通じて、私自身も大きな感動を味わっています。ジュニア剣士がすくすく成長していく姿には、喜びを感じます。また高齢の大先生が修行される姿は、人生の目標になります。さらに外国人武道家との交流は、日本文化の価値を再確認させてくれます。

これらの感動に触発され、私自身も銃剣道を再開しました。いわゆる「リバケン」です。技や心構えなどまだの未熟者ですが、歳に関係なく進歩はあると信じ、諦めず日々修行しています。

人生百年時代と言われますが、自衛官の性として、ある種の社会貢献が老いに充実感を与えてくれると思います。皆様のご参考になれば幸いです。

楽しく・充実した人生を送るために

会員 増田 博文



平成二十六年に、関西補給処を定年退職してから五年が経過し、六十歳の還暦を迎えるました。六十歳という年齢は、男性平均寿命が七十三歳の四十年前であれば、定年退職してゆっくりするのがあたりまえだつたと思いますが、現在の男性平均寿命が八十一歳であり、平均寿命が更に延びることを考えると、十分に頑張れる年齢です。

ところで皆さんは何歳まで働きたいと思っていますか。楽しく・充実した人生を送るためにも、人生百年時代と言われる今日この頃、私は少なくとも七十歳まではしっかりと働きたいと思っています。そして七十歳を超えても仕事を続けるためには、二つの要素が必要だと思っています。

第一は、「健康」であることです。そのためには、楽しくスポーツを続けることと、日頃の小さなことの積み重ねではないかと思います。私は、土日のスポーツとして、テニスと約十kmのジョギング、そして日頃の小さな積み重ねとして平日一万五千歩以上歩くことを通じて健康管理に努めています。皆さんも是非楽しみながら健康管理に取り組んでいただきたいと思います。

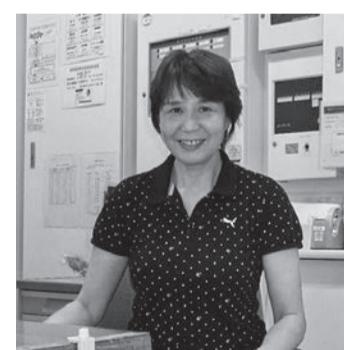
第二は、「人に喜んでもらえる充実した仕事」をすることです。ある本によるとそれは、自分が小さい時に好きだったことを選ぶと良いそうです。「充実した仕事」とは、報酬に目を向けるだけでなく、「ありがとう」と感謝されることではないかと思います。自分に合った仕事を見つけるためには、今までの仕事の延長上だけではなく、自分の能力・性格等について一度棚おろしをして、「自分が小さかった頃好きだったこと」や「面白そうだなと思つたこと」を探してみてはどうでしょうか。それが感謝されることとなれば、きっと充実してくると思います。

今、私が勤めている会社は、希望すれば六十五歳まで働き続けることができます。それでも六十五歳までです。あと五年以上長く働くための第一歩としてファイナンシャルプランナー資格を取得し、日本ファイナンシャルプランナー協会京都支部の活動にボランティアとして参加を始めました。

七十歳以降も「楽しく・充実した人生を送る」ためにも、「健康管理」に取り組みながら、「自分に合った仕事」を見つけ、働いていきたいと思っています。

再就職して思ったこと

会員 福丸 竜子



私は、平成三十年八月に定年退官し、信友会に入会した新人女性会員です。平成三十一年四月一日付で私立の中高一貫部女子寮の寮監として再就職致しました。

中高一貫校であるこの学校には、難関大学合格や医学部合格を目指す生徒さんたちが多く在籍しています。鹿児島県内各地をはじめ、他県や離島から親元を離れ、小学校を卒業す

ると寮に入り、中等部一年生の十二歳から高等部三年生の十八歳までの育ち盛りで思春期のお嬢様方、四十一名が集団生活を送っています。寮生の居室にはテレビはなく、机とベッドと勉強道具、生活用品のみであり、学校から帰つて来てからは日課表に基づき十八時から夕食を取り、入浴を済ませ消灯の二十四時までの約四時間から五時間は、学習時間となつております。

このような場所へ寮監として採用させて頂いたことは大変光榮なことです。あります。が、果たして、自衛隊しか知らない私（しかもほとんど首から下）に出来ることは何かを考えました。まず、勉強については、学校から先生が寮に来られ、ご指導して下さいます。それ以外の管理面や服務指導、寮の運営については、これまでの経験が活かせるのではないかと考えました。

寮監の仕事は、住み込みであり、「毎日、当直幹部」のようなイメージです。寮生ひとりひとりに異常がないか、寮の中で故障している所はないか、防犯・防火対策は、万全な状態であるか等を確認しています。また、学校の先生や事務職員、保護者の方々と連携し、服務指導に努め、安心・安全な生活と寮生の目標が達成出来るように環境を整えています。

私が寮生と接する時に意識していることは、大きく三つあります。ひとつは、「笑顔であること」。二つ目は、「話を聴くこと」。三つ目は、「すぐやること」です。この三つを心がけ、信頼関係を築いて、一緒に成長していきたいと考えています。

自衛隊では、多様な役職、広範多岐にわたる業務を経験させて頂きました。そこで出会った方々に厳しくも愛情あるご指導を受け、人・物を大切にすること重要性を身に染みて学びました。これらの経験は、考え方や判断の基準となり、再就職先では、謙虚な姿勢と誠実な行動をもつて、貢献して行きたいと思います。

事務局だより

一般

信友会事務局では平成三十一年度令和元年度も会長、副会長の指導のもと、年間五回の役員会を開催し、総会、合同歓送迎会業務を中心に各種管理業務を行つてまいりました。

二 地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会(通信群長講話、信友会活動状況の紹介等)を各方面通信群等のご支援を戴きながら開催しております。

今年は、北部方面通信群創隊記念行事(例年は、六月頃実施)に併せて開催予定です。

三 信友会会員増加施策

信友会会員は千名を切る状況が平成二十八年末より続いております(令和元年十二月末現在、九百四十四名)。これに伴い、信友会会員増加施策を平成二十九年度から推進し、今年度も本施策を継続しております。

具体的な内容としては、通信学校入校時の機会を捉えて幹部課程学生に対する信友会会長による講話や課程教育修了時の優秀学生への表彰等を行つております。

また、信友会ホームページ(以下HPという。)には新人会員一覧表を掲載し、会員に情報提供しております。現職通信科部隊指揮官に対しては信友会HP閲覧用パスワード(以下PWという。)を通知し、信友会活動状況等をご理解いただけるよう努めております。

今後も信友会活動をより充実させ、通信科幹部が定年退官時に信友会への入会意欲が醸成されるよう努力して参ります。皆様の近しい信友会入会資格者で未だ信友会に入会されていない方をご存知でしたら是非入会をお勧め頂けると幸甚です。



四 信友会メール及び信友会HP

信友会事務局では、会のトピックス、会員の方々の慶弔等に係る情報を信友会メール及び信友会HPを活用し、皆様にお伝えしております。HPでは最新の記事や機関紙のバックナンバーもご覧になれます。自宅P

【編集後記】

六 掲載記事について
信友会第四十三号は、皆様のご協力を頂き無事に発刊することができました。

本号は、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画の初年度という特性から、陸自システム通信の展望と課題及びサイバー等に関する内容を掲載しました。加えて、会員の方々の近況をお知らせしました。

ご寄稿を頂いた皆様には、多忙なところ快諾を頂き心から感謝致します。

令和元年叙勲おめでとうございます

春			
瑞宝小授章 森 康夫	元関東補給処総務部長	瑞宝小授章 緒方 信之	元幹部学校主任教官
瑞宝双光章 北村 誠	元通信学校	瑞宝双光章 細谷 智彦	元中央基地システム通信隊
瑞宝双光章 松本 俊英	元東部方面通信群	住谷正仁、藤田公徳、長谷川信一(＊)	河本宏章(＊)
会計長・安樂正則(＊)	秋山賢司(＊)、千頭正明、大野浩俊	副会長・河本宏章(＊)	副会長・河本宏章(＊)
監事長・酒井郁哉(総務から転任)	畠山浩明(＊)	監事長・白井一弘	監事長・白井一弘
名簿長・森田康弘、上西慶明(＊)	片岡博信、須藤勇	名簿長・森田康弘、上西慶明(＊)	名簿長・森田康弘、上西慶明(＊)
機関紙長・笛木明仁	熊田栄、大森俊之(＊)	会計長・安樂正則(＊)	監事長・酒井郁哉(総務から転任)

秋			
瑞宝小授章 佐藤 誠喜	元通信保全監査隊長	瑞宝小授章 佐藤 誠喜	元通信保全監査隊長
瑞宝小授章 末田 八郎	元技術研究本部上席特別研究官	瑞宝小授章 末田 八郎	元技術研究本部上席特別研究官
瑞宝双光章 片桐 力	元第11通信中隊	瑞宝双光章 片桐 力	元第11通信中隊
瑞宝双光章 對馬 一共	元東北補給処	瑞宝双光章 對馬 一共	元東北補給処
瑞宝双光章 宮ノ脇弘之	元北部方面通信群	瑞宝双光章 宮ノ脇弘之	元北部方面通信群

平成31年度、令和元年度信友会会計報告

(H30.1.1.1～R1.1.2.3.1) (単位:円)

収入		支出	
前年繰越	2,147,063	慶弔費	77,168
終身会費	160,000	郵送等事務費	65,337
通信等事務費	122,000	印刷費	712,011
利子	7	原稿料	32,046
第55回総会残金繰入金等	1,481	地方交付	50,000
寄付金	30,000	手数料等	9,320
		次年度繰越	1,514,669
計	2,460,551	計	2,460,551

以上のとおり報告します。

信友会会計幹事

令和元年12月31日

濱田 正徳

藤田 英雄

監査の結果、異常ありません。

信友会監事

令和元年12月31日

酒井 郁哉

山中 隆義

信友会新入会員

(H30.12.02～R1.12.01)

氏名	最終所属	入会年月日	現住所
鈴木 利征	東北通信群	H31.01.20	宮城県
山口 英明		＊	
秋山 賢司	東北補給処	H31.04.11	千葉県
池岡 龍彦	関西補給処	H31.04.13	和歌山県
一條 靖彦	北海道補給処	R01.05.08	北海道
畠山 浩明	中基シ隊	R01.05.09	東京都
佐々木宏文	小平学校	R01.05.16	東京都
柳原 康伸	北方後支隊	R01.05.23	北海道
川邊 琢哉	北方通信群	R01.05.30	北海道
菊松 巧	通保監隊	R01.06.17	東京都
田井 真	小平学校	R01.07.11	埼玉県
安樂 正則	通信学校	R01.07.29	神奈川県
岩口 利明	中基シ隊	R01.10.22	埼玉県
森 龍雄	中基シ隊	R01.11.16	埼玉県
福井 美華子	補統本部	R01.11.28	東京都

※ 本人のご意向により掲載していません



合同歓送迎会新入会員紹介